



令和2年度の学力向上対策の取組はこちらです

県教育委員会では、児童生徒の学力向上を佐賀県教育の最重要課題として捉え、そのために必要な取組を行っています。令和2年度も次の4つに取り組み、児童生徒の学力向上を目指します。なお、学力向上対策の取組をより一層充実させるために、令和2年3月に「児童生徒の学力向上対策 4つの取組」リーフレットを作成し、各小中学校へ配布しています。

1 全職員による共通理解と共通実践

- ・全職員で、学力向上対策評価シートの課題解決に向けた取組内容を共通理解
- ・学年や教科の壁を越え、取組内容を全職員で共通実践

2 学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践

- ・授業改善リーフレットの活用の徹底
- ・児童生徒が主体的に取り組む授業による学習内容が分かる授業、力がつく授業の実践

3 授業改善に向けた校内研修等の充実

- ・課題解決に向けた教材研究や評価問題作成などの研修会の一層の充実
- ・日々の指導状況や児童生徒の理解度の振り返りを確実に実施

4 家庭学習の充実に向けた指導の徹底

- ・PTAとの協働による『家庭学習の手引き』の活用の徹底
- ・家庭における適切な学習時間の確保
- ・家庭学習の進め方の指導や内容の工夫改善



「児童生徒の学力向上対策 4つの取組」では、左のように「子どもたちと共に創る授業に向けて!」「生徒指導の機能を生かした授業づくりを!」を示し、具体的な取組を紹介しています。ぜひご活用ください。



「児童生徒の学力向上対策 4つの取組」リーフレット

子どもたちの「分きたい」「できるようにしたい」のために

子どもたちは「分きたい」「できるようにしたい」という思いや願いをもちます。子どもたちにとって分かりやすい授業、力がつく授業のために、全県を挙げて取り組んでいる4つの取組の姿をさらに掲載していきます。

令和2年3月
佐賀県教育委員会

子どもたちと共に創る授業に向けて!

児童生徒の状況を踏まえながら、「子どもたちによる授業評価」に取り組んでみませんか。

【授業評価の項目例】

- ・授業がよく分かる。 ・授業の流れが示されていた。 ・板書は分かりやすい。
- ・説明の音が聞き取りやすい。 ・「めあて」「まとめ」「振り返り」があった。
- ・発表する機会がある。 ・ペアやグループで意見を出し合う場面がある。 等

※「とても」「まあまあ」「あまり」「全く」などの4段階でアンケート

【取り組んでいる先生方の声】

※最初見たときはドキドキすることもあったが、自分の授業を改善しようと思うきっかけになった。

※自分では、振り返りを毎時間していると思っていたが、生徒からは「あまりしない」との意見があり、きちんと伝わっていないので、やり方を考え直さないといいと思った。

※子どもたちからの授業評価を受けたことで、職員室で授業について話すことが増えた。

生徒指導の機能を生かした授業づくりを!

生徒指導は、学校教育のすべての場において重要な役割があり、学習指導においても生徒指導の機能を生かした指導の必要性が一層増しています。そこで、授業づくりに際して、次の3つの視点に留意しましょう。(参考:平成22年文部科学省「生徒指導要綱」より)

自己存在感を与える

→「よくできたね」などと褒めたり、励ましたりする言葉をかけること など

自己決定の場を与える

→自分の考えをもたせ、それを伝える活動の場面を作ること など

【共感的人間関係を育成する】

→互いの意見を肯定的に受け止めたり、発言をつないだりすることができるようにコーディネーターすること など

※一つの例を示しています。児童生徒の実態や教科の特性などを踏まえて工夫することが大切です。

お問い合わせ先
佐賀県教育庁 教育振興課 学力向上推進担当
☎0952-25-7476 ※gakuryoku-k@pref.saga.jp 佐賀県

「家庭学習の手引き～保護者リーフレット」をご活用ください

県教育委員会では、学習習慣の確立や家庭学習の充実に向けて、より保護者の目線に立って、具体的な事例を示して本リーフレットを作成しました。主なポイントは以下の3点です。

本リーフレットの主なポイント

ポイント1

- ・学習時間や学習の仕方等ではなく、子どもたちにとって将来にわたり必要な「学ぶ力」の育成に焦点をあてた内容にしています。

ポイント2

- ・「学ぶ力」の育成のために大切にしてほしいことを「家庭学習の習慣化4つのススメ」として整理し、具体的な声かけや関わり方についての例を載せています。

ポイント3

- ・QRコードやインターネット検索画面から検索すると、実際に各家庭で行われた働きかけの例を多数示しています。



家庭学習の習慣化に向けて保護者への啓発を図るために、保護者向け解説資料（データ）を作成し、4月に各学校へ送付しております。リーフレットを紹介する機会がありましたら、ぜひご活用ください。

C²-TIME 5678901234567890123456789012345678901278901234

「学校でやっぱり楽しか！」これは、県の緊急事態宣言が解除となり、再開となった学校の子どもたちが先生に伝えた言葉です。日常が、そして学校が「当たり前」ではなくなった時、わたしたちは一体何ができるのでしょうか。子どもたちの知りたい！分かってほしい！学びたい！という思いに応えるため、学習の場を確保し、学力を保障することこそが、今、学校現場に求められることであると感ずります。だからこそ、教育の原点に立ち戻り、児童生徒に学ぶ楽しさ・おもしろさを味わわせながら、未来につながる“生きる力”を身に付けさせていきたいものですね。

※ C²とは Continue（継続）と Complete（徹底）の頭文字です。

「学力向上だより」についての感想などをお聞かせください。

「第0号のあの記事が参考になった」、「こういった内容を取り上げてほしい」など、先生方の感想やご意見をぜひお聞かせください。お待ちしております。

また、「私の取組紹介」のコーナーでは、先生方の実践や授業アイデアを随時募集しています。自薦、他薦は問いません。どうぞお気軽に！

どちらも次のアドレスまで送信ください。 【アドレス】 gakuryoku-k@pref.saga.lg.jp